

## エ. 昆虫類

### (7) 調査結果の概要

現地調査の結果、11目151科489種の昆虫類の生息が確認された。確認された昆虫類の分類群毎の集計結果を表5.2.8.37に示すとともに、調査範囲における昆虫類相の概況について以下に示す。また、確認種一覧については資料編に添付した。

表 5.2.8.37 昆虫類分類群別種数一覧

目名	実施区域								実施区域の周辺地域							
	春季		初夏		夏季		秋季		春季		初夏		夏季		秋季	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
トンボ			2	2	3	3	1	2			2	3	3	6	2	4
カマキリ			1	1							1	1	1	1	1	2
バッタ	1	1	6	10	4	5	6	10	2	3	6	10	4	6	7	17
ナナフシ											1	1				
ハサミムシ	1	1	1	2	2	2			1	2	1	2				
カメムシ	6	7	13	19	10	13	7	9	18	27	19	29	17	22	16	24
アミメカゲロウ	1	1	1	1	1	1			1	1	2	2	1	1	1	1
コウチュウ	12	25	9	31	10	25	3	16	18	58	22	57	16	45	6	17
ハチ	6	18	8	20	7	22	4	7	13	29	11	25	10	25	8	24
ハエ	12	26	16	22	4	5	9	15	21	44	20	38	10	13	17	46
チョウ	5	6	5	6	11	23	5	9	4	9	10	18	8	16	5	13
11目151科 489種	44科85種		62科114種		52科99種		35科68種		78科173種		95科186種		70科135種		63科148種	
	96科251種								142科409種							

実施区域の主な環境は、水田や畑の農耕地、市街地であり、このほかに耕作放棄地といった小規模な草地等が点在していた。一方、実施区域の周辺地域の主な環境は、実施区域と同様に、農耕地や市街地が中心であったが、実施区域とは異なり、社寺林には大径木がみられるほか、相模川や笠張川の河川敷には河岸に沿って連続したオギを中心とする草地環境、相模川の河川敷にはササ草地や高木林が存在していた。

このような環境を反映して、実施区域及びその周辺地域のいずれにおいても広い範囲でみられた種は、農耕地の路傍雑草、あるいは農耕地に特有の環境条件を利用している種が中心であった。具体的には、イネ科草本を広く摂食するウスイロササキリ、ショウリョウバッタ、セイトカアワダチソウを食草とするアワダチソウゲンバイ、堆肥等の汚物に集まるヒトテンツヤホソバエやオスアカツヤホソバエ、アブラナ科草本を食草とするモンシロチョウ、スイバ類を食草とするベニシジミ、カタバミ類を食草とするヤマトシジミ本土亜種といった種である。このほか、植生のみられる水路では、ハグロトンボのように流水環境に生息するトンボ類が確認された。

実施区域の周辺地域では、実施区域で確認された種に加えて、樹林に生息する種や河川に生息する種が多く確認された。笠張川沿いの草地では、他の環境で確認されていないハネナガヒシバッタやムラサキシラホシカメムシ、アオゴミムシといった湿地環境を好む種が確認された。また、相模川の河川敷では、アカヒメヘリカメムシやウズラカメムシ等のカメムシ類、オギやスキ等のイネ科高茎草本の生育した環境でみられること多いヒゲシロスズやクマスズムシ、

キリギリス等が確認された。このほか、相模川の河川敷にみられる小規模な樹林では、ナナフシモドキ、カミキリムシ類等の樹林性の昆虫類が確認されたほか、植生が繁茂する流れの緩やかな場所では、植生の豊かな池沼を好むコフキトンボ、湿地を好むハラビロトンボ等が確認された。さらに、植生のみられる水路や笠張川、相模川では、実施区域と同様に、多くのハグロトンボが確認された。

#### (4) ベイトトラップ法

ベイトトラップ法による捕獲調査の結果、6目27科82種の昆虫類の生息が確認された。調査地点の環境概況を表5.2.8.38に示すとともに、各調査地点の確認状況について以下に示す。なお、確認種の一覧は巻末資料に添付した。

表 5.2.8.38 ベイトトラップ法調査地点の環境概況

調査地点		調査地点の概況
実施区域	Bt.1	農道沿いに位置する、セイタカアワダチソウ等からなる路傍雑草群落である。周辺は畑地環境となっており、やや湿っている。農道沿いに掘られた溝は、初夏は草に覆われていたが、夏季は草刈りのため地面が露出していた。
	Bt.2	水田と道路に隣接する、アメリカセンダングサ、ヨシ等からなる草地である。初夏はヨシの丈は低く、草本も密生していなかったが、夏季はヨシが生長し、そのほかの草本とともに密生していた。周辺は水田環境となっている。
周辺地域の	Bt.3	笠張川左岸に位置する、オギ等からなる高茎草地であるが、夏季は草刈りのため丈が低くなっていた。周辺は水田、畑地環境となっており、やや湿っている。

##### ■Bt. 1

調査地点では42種の昆虫類の生息が確認された。確認された種は、湿った草地の土中に生息するケラ、草地の地表で生活するハラオカメコオロギやマダラスズといったコオロギ類等、裸地の石下のような場所を好むハマベハサミムシ、セアカヒラタゴミムシ、ナガマルガタゴミムシ、コゴモクムシといった地表徘徊性のゴミムシ類、アミメアリやトビイロケアリといった様々な環境でみられるアリ類等であった。

なお、調査地点では、外来種であるアルファルファタコゾウムシが確認された。

##### ■Bt. 2

調査地点では29種の昆虫類の生息が確認された。確認された種は、ハラオカメコオロギやエンマコオロギといったコオロギ類、セアカヒラタゴミムシ、マルガタツヤヒラタゴミムシ、ナガマルガタゴミムシ、コゴモクムシといったゴミムシ類、ヒメアリやトビイロシワアリ、アメイロアリといったアリ類等であり、いずれも草地で普通にみられる種が中心であった。

##### ■Bt. 3

調査地点では50種の昆虫類の生息が確認された。確認された種は、キアシヌレチゴミムシやアオゴミムシといった湿地的環境を好む種のほか、様々な環境を好むキイロシリアゲアリ、アズマオオズアリ、アメイロアリ等のアリ類が多く確認された。また、調査地点の周辺には、オギ等の高茎草本類が生育していることから、オギやススキといったイネ科高茎草地を好むヒゲシロスズやクマスズムシが確認された。

#### (ウ) ライトトラップ法

ライトトラップ法による調査の結果、4目14科26種の昆虫類の生息が確認された。確認状況について以下に示す。また、確認種の一覧は巻末資料に添付した。なお、調査地点の環境概況は表5.2.8.39に示すとおりである。

表 5.2.8.39 ライトトラップ法調査地点の環境概況

調査地点		調査地点の概況
実施区域	Lt.1	水田と道路に隣接する、アメリカセンダングサ、ヨシ等からなる草地である。初夏はヨシの丈は低く、草本も密生していなかったが、夏季はヨシが生長し、そのほかの草本とともに密生していた。周辺は水田環境となっている。

#### ■Lt. 1

調査地点では26種の昆虫類の生息が確認された。確認された種は、キイロチビゴモクムシやウスチャケシマキムシといったコウチュウ類のほか、ガ類やユスリカ類等が中心であった。このうち、ガ類は夏季における確認が多く、サツマイモを食害するイモキバガ、ダイコンやダイズ等の多くの農作物を食害するクロモンキノメイガ、イネを食害するフタオビコヤガ等が確認された。また、秋季にはヨモギ等キク科草本上でみられることの多いウスモンミドリカスミカメ、マメ科植物を食草とするクロスジヒメアツバ等が確認された。

なお、確認された種の多くは、調査地点が耕作地及び市街地に囲まれていることを反映して、耕作地や市街地の周辺で普通にみられる種が中心であった。

(I) ハグロトンボ生息量調査

現地調査の結果、実施区域で8個体(0.8個体/100m当たり)、実施区域の周辺地域で71個体(4.85個体/100m当たり)のハグロトンボが確認された。調査地点の環境概況を表5.2.8.40、調査結果を表5.2.8.41、図5.2.8.15に示すとともに、確認状況について以下に示す。

表 5.2.8.40 調査ルート of 環境概況

調査ルート	調査ルートの概況	
実施区域	R.1	【水域形状】水路(排水路) 水田地帯を流れる流路幅約2.0mの水路で、両岸ともに鋼矢板で護岸されているとともに、河床はコンクリートで固定されている。水深は一律に5cm程度と浅く、河床のほとんどはコンクリートが露出しているが、一部には砂泥が堆積している箇所がみられ、ミゾソバ等の植物が生育していた。
	R.2	【水域形状】水路 水田地帯を流れる流路幅約1.5mの水路で、両岸及び河床はコンクリートで護岸されている。水深は50cm程度で、流速は約1.0m/sと速い状態にあった。河床のほとんどはコンクリートが露出しており、水路内には抽水植物等の生育はみられなかった。
	R.3	【水域形状】水路 水田地帯を流れる流路幅約1.8mの水路で、両岸及び河床はコンクリートで護岸されている。水位は約50~80cmで、流れはほとんどない状況にあった。抽水植物等の生育はみられず、水辺の植生は畦に生育する植物の葉が所々に垂れ込む程度であった。
	R.4	【水域形状】水路 水田地帯を流れる流路幅約2.0mの水路で、両岸及び河床はコンクリートで護岸されている。水位は60~80cmで、流れはほとんどない状況にあった。抽水植物等の生育はみられず、水辺の植生は畦に生育する植物の葉が所々に垂れ込む程度であった。
実施区域の周辺地域	R.5	【水域形状】水路(排水路) 住宅地や工場地内を流れる流路幅約3.0mの水路である。両岸ともに鋼矢板で護岸され、河床はコンクリートとなるが、河床には砂泥の堆積がみられた。水深は一律に5~10cm程度と浅いが、蛇行部には小規模な瀬が分布していた。また、この蛇行部の内側には、砂泥が堆積している箇所(寄州)がみられ、その一部にはミゾソバ等の植物が生育していた。
	R.6	【水域形状】水路 住宅地内を流れる流路幅約2.0mの水路である。両岸及び河床はコンクリートで護岸され、水深は一律に20cm程度と浅いが、河床には砂泥の堆積がみられ、コンクリートが露出している箇所はほとんどみられなかった。なお、本調査地点の上・下流側は暗渠化されていた。
	R.7-1	【水域形状】小河川：笠張川 水田地帯を流れる流路幅1.0~2.0mの小河川(笠張川)で、両岸はコンクリートによって護岸されている。小規模ながらも瀬と淵が分布し、瀬の水深は約10cm、淵は60cmであった。また、水際はコンクリートが露出している部分が多いものの、蛇行部の内側等には、土砂の堆積がみられ、ヨシやマコモ等の抽水植物が生育していた。このほか、河道内には沈水植物の生育がみられた。
	R.7-2	【水域形状】小河川：笠張川 R.7-1の下流側に位置する。流路幅は約3.0mで、両岸はコンクリートによって護岸されている。流程はおおむね平瀬となり、水深10cm程度であった。なお、この区間は、河道内に土砂の堆積がみられず、水際に生育する植物の葉が所々に垂れ込む程度であった。
	R.8-1	【水域形状】大河川：相模川(河川形態Bb型) 相模川の右岸側に位置する。調査ルートを設定した区間は、淵的な河川形状となる。また、水際は階段型の親水護岸形状となり、植生の生育はほとんどみられなかった。
	R.8-2	【水域形状】大河川：相模川(河川形態Bb型) R.8-1の上流側に位置し、流れは緩やかで淵的な形状となる。水際にはヨシやカヤツリグサ類、ヤナギ類等が生育していた。

表 5.2.8.41 確認環境別個体数一覧

調査ルート (調査距離)		実施区域				実施区域の周辺地域					
		R.1 250m	R.2 250m	R.3 250m	R.4 250m	R.5 250m	R.6 250m	R.7-1 250m	R.7-2 315m	R.8-1 250m	R.8-2 150m
確認環境	ヤナギ類										3
	抽水植物							15			3
	乾生高茎草本類							1			
	湿生低茎草本類	3				7		8			5
	乾生低茎草本類				3			3	25		
	沈水植物	2				1					
合計		5 個体	0 個体	0 個体	3 個体	8 個体	0 個体	27 個体	25 個体	0 個体	11 個体
		8 個体				71 個体					

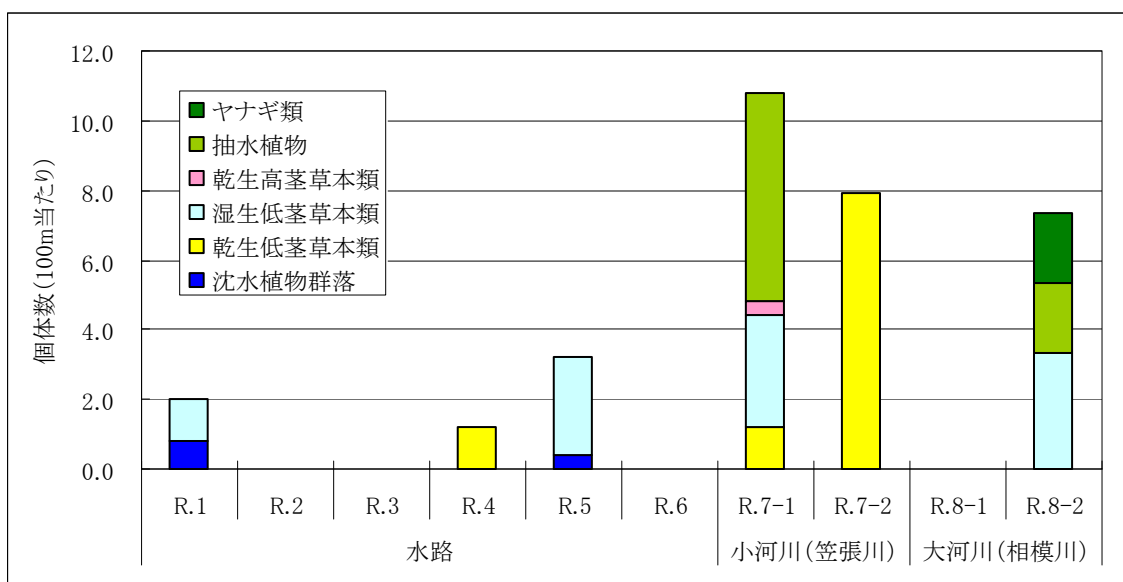


図 5.2.8.15 一定距離 (100m) におけるハグロトンボの個体数

現地調査の結果、水域の規模に関わらず、抽水植物や水際植物（水田畦雑草等の垂れ込み）がほとんどみられない R.2、R.3、R.6、R.8-1 では、ハグロトンボは確認されなかった。

一方、水際に抽水植物や湿生低茎草本類、乾生低茎草本類が生育する水域では、ハグロトンボの生息量は多く、特にこのような水際植生が連続してみられる笠張川及び相模川では、生息量が多い結果となった。なお、笠張川では両岸において調査を実施しているが、相模川は河川規模が大きいため、右岸側のみでの実施である。そのため、相模川については、笠張川と同等以上のハグロトンボが生息しているものと考えられる。また、部分的に湿生低茎草本類や沈水植物が生育する R.1 や R.5 では、このような環境がみられる環境でのみハグロトンボは確認されたが、植生のみられない環境では本種は確認されなかった。このほか、R.4 はハグロトンボが確認されていない R.3 と同様な環境となるが、R.3 と比較すると、乾生低茎草本類が水際に垂れ込んでいる場所が多く、このような場所において本種が確認された。

オ. クモ類

(7) 調査結果の概要

現地調査の結果、31科215種のクモ類の生息が確認された。なお、結果には土壌動物調査で確認されたクモ類も含めた。科別確認種数一覧を表 5.2.8.42 に示すとともに、調査範囲におけるクモ類相の概要について以下に示す。また、確認種一覧は、巻末資料に添付した。

表 5.2.8.42 クモ類科別確認種数一覧

科名	実施区域				実施区域の周辺地域			
	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季
ジグモ		1		2	1	1	1	2
トタテグモ	2				1			
ユウレイグモ		1						
タマゴグモ						1		2
センショウグモ								1
チリグモ	1	1	1		2	1	1	1
ウズグモ	2	1	1	1	2	1	2	1
ホラヒメグモ	1							1
ヒメグモ	5	6	5	7	10	9	14	11
コツブグモ				1			1	
サラグモ	10	13	6	12	11	14	14	11
アシナガグモ	5	7	7	6	8	8	10	6
ジョロウグモ		1	1	1		1	1	1
コガネグモ	4	7	4	7	6	9	13	11
コモリグモ	9	9	10	9	9	8	10	9
キシダグモ	2	2	1	3	2	2	4	2
ササグモ	1	1		1	1	1	1	1
シボグモ	1		1	1	1	1	1	1
タナグモ	1	1	1	1	1	1	1	1
ハタケグモ	1	1	1	1	1	1	1	1
ハグモ	1		1	2	1		1	3
ガケジグモ	3	1	1	2	3	1	1	3
ツチフクログモ					2	2	1	1
ウエムラグモ	1				3	1		
フクログモ	3	1	1	2	5	4	2	3
ネコグモ	2	2	1	2	4	5	3	5
ワシグモ	2	1			2	4	3	4
アシダカグモ			1				1	1
エビグモ	4	2	2	3	3	4	2	4
カニグモ	6	8	5	5	6	7	9	5
ハエトリグモ	14	18	16	14	14	17	15	18
31科215種	81種	85種	67種	83種	99種	104種	113種	110種
	156種				200種			

調査範囲の環境を概観すると、西側には水田や畑地といった耕作地が多く、東側には市街地が多くを占める傾向がみられた。また、実施区域についてみると、水田や畑地、市街地が大部分を占めていた。一方、実施区域の周辺地域は実施区域と同様に、農耕地や市街地が中心となるが、東側には相模川、西側には笠張川といった河川が流れており、その河川敷や堤防沿いには連続した草地環境がみられた。

実施区域で確認されたクモ類は、農耕地周辺の低茎草地や市街地に生息している種が多かった。農耕地周辺で確認されたクモ類は比較的多く、例をあげると、水田や畑地等を徘徊しているシッチコモリグモ、スジボソハシリグモ、ヤミイロカニグモ、水田脇の水路や湿地状の草地に円網を張っているヤサガタアシナガグモやヒカリアシナガグモ等であった。また、市街地では、生け垣の地面に巣をつくっているキシノウエトタテグモ、駐車場の石下に網を張っているメガネヤチグモ、水路を横断するコンクリート製の橋に網を張っているイエウレイグモやズグロオニグモ等が確認された。

実施区域の周辺地域では、水田や市街地においては、実施区域と同様の種が確認されたほか、相模川河川敷等のまとまった面積のある草地や樹林を背景として、草地や樹林に生息する種が多く確認された。草地で確認された種は、オギの根際に小さな網を張っているチビアカサラグモやオノゴミグモ、オギ間に網を張っているコガネグモダマシ、オギの葉を巻いてその中に潜んでいるカバキコマチグモやヤマトコマチグモ、湿った地表を徘徊しているシッチコモリグモやイモコモリグモ、比較的乾燥した地表を徘徊しているハラクロコモリグモやオビジガバチグモ等であった。また、樹林で確認された種は、樹間等に円網を張るビジョオニグモやサツマノミダマシ、樹皮等を徘徊しているムナアカフクログモやヤサアリグモ等のほか、林床を徘徊しているキレオビウラシマグモやエビチャヨリメケムリグモ等であった。相模川には低水敷<sup>\*</sup>にオギ原が広がり、河川敷にはエノキ等をはじめとした高木の樹林が分布していた。そのため、このようなまとまりのある緑地では、他の環境では確認されていない種が多く確認される傾向がみられた。

このほか、実施区域の周辺地域においては面積的には大きくはないものの、公園や樹林といった環境がみられ、このような場所では地中造網性のワスレナグモ、地表徘徊性のナルトミダニグモやクワガタアリグモ、樹皮を徘徊するエキスハエトリ等が確認された。

---

※低水敷

横断面において、常に流水がある部分、または時々雨水で流水に浸される部分。常識的に流水により河川とみられている部分をいう。低水路とほぼ同じ意。

カ. 土壌動物

(7) 調査結果の概要

現地調査の結果、10 綱 36 目 209 科 639 種の土壌動物の生息が確認された。綱目別確認種一覧を表 5.2.8.43 に示すとともに、調査範囲における土壌動物相の概要について以下に示す。また、確認種一覧を巻末資料に添付した。

表 5.2.8.43 土壌動物分類群別種数一覧

綱名	目名	実施区域								実施区域の周辺地域							
		春季		初夏		夏季		秋季		春季		初夏		夏季		秋季	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
ウズムシ	ウズムシ	1	2					1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
マキガイ	モノアラガイ							1	1	1	1					1	1
	マイマイ	5	7	6	8	5	6	4	5	6	8	7	9	9	11	8	10
ミミズ	ナガミミズ	2	2	1	1	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	1
	イトミミズ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
ヒル	アゴヒル															1	1
クモ	カニムシ	1	1	1	1	1	1					1	1				
	ザトウムシ	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	2	1	2	1	2
	ダニ	12	12	16	17	8	10	9	11	8	9	9	10	11	11	5	6
	クモ	16	33	15	38	11	30	15	42	21	71	21	59	19	62	22	63
甲殻	ワラジムシ	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5
	ヨコエビ	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	1	1	1
ヤスデ	フサヤスデ															1	1
	タマヤスデ									1	1	1	1				
	ヒメヤスデ			1	1			1	1	1	2	1	1			1	2
	オビヤスデ	2	3	2	5	1	1	2	4	4	6	3	4	3	3	3	6
	不詳											1	1				
ムカデ	ゲジ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	イシムカデ	1	3	1	4	1	1	1	1	1	2	2	4	1	1	2	3
	オオムカデ							1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	ジムカデ	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		
コムカデ	不詳			1	1			1	1	1	1					1	1
昆虫	トビムシ	7	11	5	7	5	6	6	8	8	9	5	8	6	7	5	6
	カマアシムシ	1	2											1	1		
	コムシ	2	2	1	1	1	1					1	1	1	1	1	1
	ゴキブリ	1	1	1	1	1	1	1	1							1	1
	カマキリ			1	1							1	1	1	1	1	1
	バッタ	1	1	2	2	3	6	2	4	1	1	2	3	3	5	4	10
	ハサミムシ	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	1	3	3	5	2	5
	チャタテムシ			1	1	1	1			2	2	1	1	2	2	1	1
	アザミウマ			1	2	1	2			1	1	1	1	1	1	1	1
	カメムシ	5	6	10	11	8	13	12	20	10	15	12	19	10	15	13	27
	アミメカゲロウ											1	1				
	コウチュウ	11	35	9	41	10	32	12	34	17	50	20	56	20	56	19	62
	ハチ	4	12	4	20	3	14	3	18	3	12	2	19	4	19	4	22
	ハエ	8	10	6	6	3	3	5	5	12	13	8	8	3	3	4	4
	チョウ	3	3	3	3	4	4	5	5	5	5	3	3	2	2	4	4
10 綱 36 科 209 科 639 種		92 科 156 種		96 科 181 種		77 科 143 種		92 科 175 種		118 科 227 種		116 科 228 種		112 科 220 種		116 科 254 種	
158 科 383 種										190 科 526 種							



調査範囲の環境を概観すると、西側には水田や畑地といった耕作地が多く、東側には市街地が多くを占める傾向がみられた。また、実施区域についてみると、水田や畑地、市街地が大部分を占めていた。耕作放棄地等の小規模な草地、公園等の樹林は点在する程度であった。一方、実施区域の周辺地域は実施区域と同様に、農耕地や市街地が中心となるが、東側には相模川、西側には笠張川といった河川が流れており、その河川敷や堤防沿いには連続した草地環境がみられた。

実施区域では、低茎草地や市街化が進んだ地域でも生息が可能な種が多く確認された。草地では落葉や石の下に潜んでいたり、徘徊しているハラクロコモリグモ、ヤマトアカヤスデ、ホルストヒトフシムカデ、サビヒョウタンナガカメムシ、ヨツモンミズギワコメツキ等が確認された。また、市街地ではワラジムシ、ヒトリコゲチャハエトリ、トビイロシワアリ等の比較的乾燥に強い種が確認された。わずかにみられる樹林では、落葉や朽木の下に潜んでいたり、徘徊しているキシノウエトタテグモ、モリチャバネゴキブリ、コゴモクムシ、ハリブトシリアゲアリ等が確認された。

実施区域の周辺地域では、水田や市街地においては、実施区域と同様の種が確認されたほか、相模川河川敷等のまとまった面積のある草地や樹林を背景として、草地や樹林に生息する種が多く確認された。草地では落葉や石の下に潜んでいたり、徘徊しているクロスジコウガイビル、スネグロオチバヒメグモ、ニホンヒメフナムシ、ヤマトアカヤスデ、ミツモンセマルヒラタムシ等が確認された。また、樹林では落葉や朽木の下に潜んでいたり、徘徊しているオオミスジコウガイビル、ナミコギセル、キレオビウラシマグモ、マクラギヤスデ、オオウロコチャタテ、アトワアオゴミムシ等が確認された。樹林地で確認されたこれらの土壤動物は、多くが落葉等が多く堆積し、土壌湿度が保たれている場所に生息していた。

(イ) ハンドソーティング法

ハンドソーティング法による捕獲調査の結果、7綱23目88科170種の土壤動物の生息が確認された。調査地点の環境概況を表5.2.8.44に示すとともに、各調査地点の確認状況について以下に示す。なお、確認種の一覧は巻末資料に添付した。

表 5.2.8.44 調査地点の環境概要

調査地点		調査地点の概況
実施区域	St.1	農道沿いに位置する、イネ科草本等からなる低茎草地である。草刈り後で、落葉・落枝が残っていた。周辺は畑地環境となっており、土壌は適度に湿っていた。
	St.2	水田と道路に隣接する、ヨシやアメリカセンダングサ等からなる低茎草地である。周辺是水田環境となっており、土壌は適度に湿っていた。
実施区域の周辺地域	St.3	笠張川左岸に位置する、オギ等からなる高茎草地であるが、夏季は草刈りのため丈が低くなっていた。笠張川に近いこともあり、土壌はやや湿っていた。

■St. 1

調査地点では80種の土壤動物が確認された。確認された種は昆虫類が多く、*Monotarsobius* 属の一種、ムラサキトビムシ科の一種、ニセハサミコムシ、マルツチカメムシ、ウスモンコミズギワゴミムシ、ヨツモンミズギワコメツキ、ニセハリアリ等であった。

乾燥した低茎草地は土壤動物の生息環境としては不適であるが、調査地点の環境は適度に湿っており、草地に生息する土壤動物が確認された。

■St. 2

調査地点では83種の土壤動物が確認された。確認された種は、ウスカワマイマイ、オオヤミイロカニグモ、シロトビムシ科の一種、ナガマルガタゴミムシ、トビイロシワアリ、トカラウロコアリ等であった。

調査地点はヨシが主体の環境で、根際には落葉や落枝が堆積して土壌は湿った状態となっていたことから、比較的湿った草地に生息する土壤動物が確認された。

■St. 3

調査地点では84種の土壤動物が確認された。確認された種は、オカモノアラガイ科の一種、ベッコウマイマイ科の一種、*Allopeas* 属の一種、*Pheretima* 属の一種、ニホンオカトビムシ、ヤケヤスデ、ヤケヤスデ科の一種、ヒメフトツツハネカクシ等であった。

調査地点は草刈り後も刈られた草が地表に多く残っていたため、土壌湿度が保たれており、比較的湿った草地に生息する土壤動物が多く確認される傾向がみられた。なかでも、マキガイ綱とミミズ綱は種数・個体数ともに他の調査地点より多い結果となった。

#### (ウ) 土壌試料採取法（ツルグレン抽出）

土壌試料採取法（ツルグレン抽出）による調査の結果、7綱16目53科75種の土壌動物の生息が確認された。大部分の種が1地点でのみ確認されているが、トゲダニ亜目の一種、*Oribatula* 属の一種はいずれの地点でも確認され、個体数も多い結果となった。

各調査地点の確認状況について以下に示す。また、確認種の一覧は巻末資料に添付した。なお、ツルグレン法の調査地点は、ハンドソーティング法の調査地点と同一地点で実施した。

##### ■St. 1

調査地点では27種の土壌動物が確認された。個体数が最も多かったのは *Oribatula* 属の一種であり、確認個体数の8割以上を占める結果となった。また、このほかに個体数が多かった種は、ツチトビムシ科の一種、トゲダニ亜目の一種、*Desoria* 属の一種であった。なお、*Oribatula* 属の一種は他の調査地点でも個体数が多い傾向にあった。

##### ■St. 2

調査地点では43種の土壌動物が確認された。個体数が最も多かったのはトゲダニ亜目の一種であり、確認個体数の3割弱を占める結果となった。また、このほかに個体数が多かった種は、テングダニ科の一種、*Oribatula* 属の一種、*Scheloriabates* 属の一種、*Entomobrya* 属の一種等であり、ダニ目やトビムシ目が上位を占める結果となった。

##### ■St. 3

調査地点では39種の土壌動物が確認された。個体数が最も多かったのはクシカマアシムシ科の一種であり、確認個体数の2割程度を占める結果となった。また、このほかに個体数が多かった種は、*Onychiurus* 属の一種、*Mecrisotoma achromata*、*Oribatula* 属の一種、トゲダニ亜目の一種等であった。

(3) 重要な動物の生息状況及び生態

① 調査事項

調査範囲における重要な種の確認地点、生息状況について、調査した。

調査方法は「(2) 動物相」の現地調査結果の整理により、表 5.2.8.45 に示す選定基準に該当するものを重要な種として抽出した。

また、調査範囲に生育する可能性のある種を表 5.2.8.46 に示す文献資料から把握した。

表 5.2.8.45 重要な動物の選定基準

選定基準 1	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号） 特：特別天然記念物 天：天然記念物 県：神奈川県指定天然記念物 市：平塚市指定天然記念物
選定基準 2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年 法律第 75 号） 内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種 緊：緊急指定種
選定基準 3	環境省報道発表資料 レッドリストの見直しについて 一哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫類、貝類、その他の無脊椎動物一 （平成 18 年・平成 19 年、環境省） EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧種 I A 類 EN：絶滅危惧種 I B 類 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準 4	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006（平成 18 年、神奈川県生命の星・地球博物館） EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 減：減少種 希：希少種 要：要注意種 注：注目種 DD：情報不足 DD-A：情報不足 A DD-B：情報不足 B 不明：不明種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
選定基準 5	地域環境評価（神奈川県環境部環境政策課）における神奈川県産学術的貴重種リスト 一：一級種 二：二級種

表 5.2.8.46 重要な動物の文献資料

番 号	文 献 名
①	文化財保護法（昭和 25 年 法律第 214 号）
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物
③	「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」の中で平塚市に分布が確認されている種のうち、水田、畑地、湿地、河川等の環境に生育・生息する種
④	「自然環境保全調査報告書」（昭和 51 年、環境庁）の「主要野生動物」にあげられている種のうち、平塚市で分布が確認されている種

② 調査結果

ア. 哺乳類

抽出の結果、表 5.2.8.47～48 に示すとおり、文献資料に基づく種として、2 科 2 種が確認され、現地調査では、2 科 2 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.16 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.49 に示すとおりである。

表 5.2.8.47 重要な哺乳類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名	文 献				選定基準				
			和名	①	②	③	④	1	2	3	4	
1	ネズミ目	ネズミ科	カヤネズミ			●						NT
2	ネコ目	イタチ科	イタチ			●						NT
2目2科2種				0	0	2種	0	0	0	0	0	2種

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.48 重要な哺乳類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲							
							実施区域				実施区域の周辺地域			
		1	2	3	4	5	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季
ネズミ	カヤネズミ				NT	二					●	●	●	●
イタチ	イタチ				NT						●	●		
2科2種		0種	0種	0種	2種	1種	0種	0種	0種	0種	1種	2種	2種	1種
							0種				2種			

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.49 重要な哺乳類の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項 目	内 容
カヤネズミ	確認状況	実施区域の周辺地域の高茎草地において、冬季に球巣4個、春季に球巣1個、夏季に球巣1個、秋季に球巣2個が確認された。
	一般生態	本州の太平洋側では宮城県、日本海側では新潟県以南、四国、九州、隠岐諸島、淡路島、豊島、因島、対馬、天草下島、福江島に分布する。低地から標高1,200mまでの草地、水田や畑地等の農耕地、河川敷等のイネ科植物が密生した場所に生息し、植物の種子等を採食する。イネ科植物等の葉を編み込んで地上に球形の巣をつくり、春季と秋季に繁殖する。
イタチ	確認状況	実施区域の周辺地域の草地（耕作放棄地）において、春季に足跡が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川において、夏季に足跡が確認された。
	一般生態	日本固有種で、本州、九州、四国、佐渡、隠岐諸島、伊豆大島、淡路島、小豆島、壱岐、五島列島、屋久島、種子島等に分布する。北海道、利尻島等では、ネズミ類の駆除のために導入された個体が定着した島嶼もある。主な生息地は平野部であるが、西日本ではおもに山間部に生息する。4～5月頃に交尾し、1ヶ月ほどで平均3～5頭の仔を産む。カエル類やネズミ類、鳥類、昆虫類等の陸上小動物のほか、水に入りアメリカザリガ二等の甲殻類や魚類を捕食する。

注) 参考：東海大学出版社「日本の哺乳類〔改訂版〕2005年改訂版」（平成17年）

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年）

凡 例

-  実施区域
-  調査範囲
-  確認位置 (冬季)
-  確認位置 (春季)
-  確認位置 (夏季)
-  確認位置 (秋季)

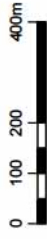
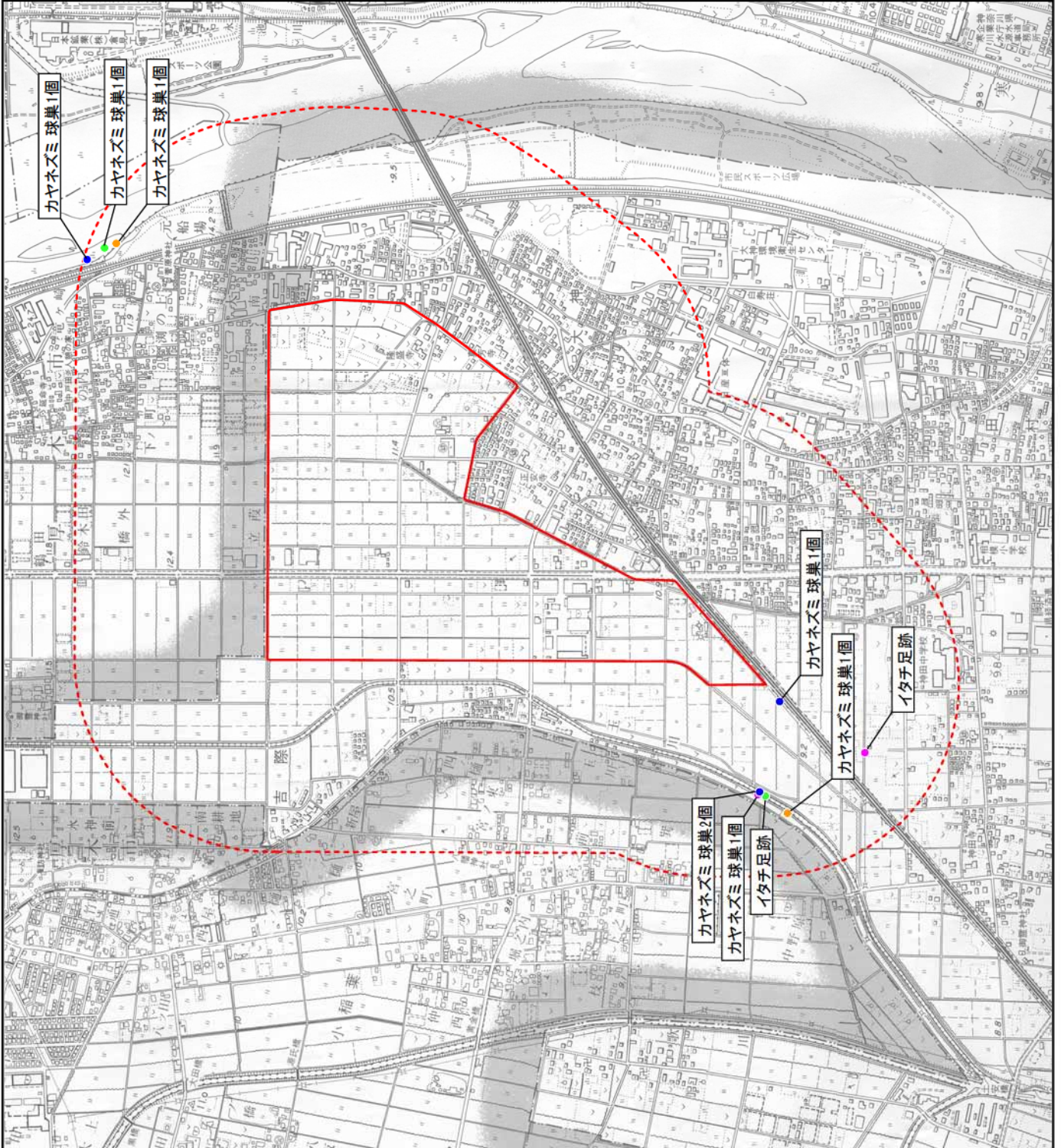


図5.2.8.16  
重要な哺乳類の確認位置



イ. 鳥 類

抽出の結果、表 5.2.8.50～51 に示すとおり、文献資料に基づく種として、19 科 56 種が確認され、現地調査では、14 科 22 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.17(1)～(2)に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.52 (1)～(4)に示すとおりである。

なお、選定基準 4 の「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（平成 18 年、神奈川県生命の星・地球博物館）では、鳥類については繁殖期と非繁殖期でカテゴリーが異なる。そのため、春季調査の確認種は繁殖期のカテゴリーに該当する種を重要な種として抽出した。

表 5.2.8.50 重要な鳥類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名 和名	文 献				選定基準									
				①	②	③	④	1	2	3	4						
											繁殖期	非繁殖期					
1	コウノトリ目	サギ科	ヨシゴイ			●					NT	VU					
2			ササゴイ			●							VU				
3			アマサギ				●							減			
4	カモ目	カモ科	シマアジ			●								希			
5	タカ目	タカ科	ミサゴ			●					NT	VU	NT				
6			オオタカ			●				内	NT	VU		希			
7			ツミ			●							VU		希		
8			ハイタカ				●					NT	DD		希		
9			ノスリ				●						VU		希		
10			ハヤブサ科	ハヤブサ				●				内	VU	CR+EN		希	
11			キジ目	キジ科	ウズラ			●					NT			VU	
12	ツル目	クイナ科	クイナ			●								VU			
13	チドリ目	チドリ科	コチドリ			●							注				
14			イカルチドリ			●								NT	注		
15			シロチドリ			●								VU	NT		
16			ムナグロ			●									減		
17			ケリ			●									希	NT	
18			タゲリ			●										VU	
19			シギ科	キョウジョシギ			●									VU	
20				トウネン			●										VU
21				ヒバリシギ			●										NT
22				ウズラシギ			●										NT
23				ハマシギ			●										VU
24				エリマキシギ			●										NT
25				ツルシギ			●										NT
26				コアオアシシギ			●										NT
27				アオアシシギ			●										NT
28				タカブシギ			●										NT
29				キアシシギ			●										VU
30		イソシギ				●									希	注	
31		ソリハシシギ				●										VU	
32		オグロシギ				●										VU	
33		ホウロクシギ			●								VU		CR+EN		
34		チュウシヤクシギ			●										VU		
35		タシギ			●										注		
36		カモメ科	コアジサシ			●					際	VU	CR+EN				
37		フクロウ目	フクロウ科	トラフズク			●								CR+EN		
38				コミミズク			●									CR+EN	
39				アオバズク			●								VU		
40		アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ			●								減		
41		スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ			●								減		
42			ツバメ科	ツバメ			●									減	
43				コシアカツバメ			●									減	
44	セキレイ科		キセキレイ			●									減		
45			セグロセキレイ			●									減		
46			ビンズイ			●								VU			
47	モズ科		モズ			●									減		
48	ツグミ科		アカハラ			●									減		
49	ウグイス科		オオヨシキリ			●									VU		
50			セッカ			●									減	減	
51	ホオジロ科		ロジュリン			●							VU		VU		
52		ホオアカ			●								CR+EN				
53		アオジ			●									VU			
54		クロジ			●								CR+EN		減		
55		オオジュリン			●										VU		
56	アトリ科	カワラヒワ			●									減			
9目19科56種				0種	0種	56種	0種	0種	3種	9種	31種	37種					

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.51 重要な鳥類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲											
		1	2	3	4		5	実施区域					実施区域の周辺地域					
					繁殖期	非繁殖期		冬季	春季	初夏	夏季	秋季	冬季	春季	初夏	夏季	秋季	
ウ	カワウ						一	●					●	●	●	●	●	●
サギ	ササゴイ				VU		二							●	●	●		
	アマサギ				減		二		●	●	●	*		●	●	●		
	ダイサイギ						二	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
	チュウサギ			NT			二				●					●		
	アオサギ						一	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
タカ	ミサゴ			NT	VU	NT	一						●					
	オオタカ		内	NT	VU	希	一					●	●					●
	ツミ				VU	希	一					●						●
クイナ	オオバン					二						●					●	
チドリ	コチドリ				注				●					●				
	ケリ				希	NT	二	●					●					●
	タゲリ					VU	二						●					
シギ	イソシギ				希	注											●	●
	タシギ					注						●						●
カモメ	コアジサシ		際	VU	CR+EN									●	●	●		
ハト	アオバト				注	注	二											●
フクロウ	アオバズク				VU									●	●	●		
アマツバメ	ヒメアマツバメ				減								*	●				*
カワセミ	カワセミ						二	●						●	●	●	●	●
キツツキ	コゲラ						二						●					●
ヒバリ	ヒバリ				減			*	●	●	●	*	*	●	●	●	●	*
ツバメ	ツバメ				減				●	●	●			●	●	●		
セキレイ	セグロセキレイ				減								*		●			*
モズ	モズ				減			*		●	●	*	*		●	●	*	
ウグイス	オオヨシキリ				VU				●	●	●			●	●	●		
	セッカ				減	減			●	●	●		●	●	●	●		
ホオジロ	ホオアカ					二	●											
アトリ	カラヒワ				減			*	●	●	●	*	*	●	●	●	*	
14科 22種		0種	2種	4種	19種	9種	16種	6種	9種	9種	10種	3種	11種	15種	15種	16種	12種	
					21種	18種					28種							

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

神奈川県 RDB 該当種で、繁殖期のみ該当する種は非繁殖期(冬季・秋季)においては重要な種としては扱わない。このため、非繁殖期(冬季・秋季)の確認については“\*”で表記している。また、時期別の確認種数には含めていない。



表 5.2.8.52(1) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
ササゴイ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に1例1個体、初夏に2例2個体、夏季に6例6個体が確認された。
	一般生態	本州から九州の各地に夏鳥として渡来し、繁殖する。九州南部では冬季も留まるものがある。薩摩諸島以南では冬鳥として渡来する。河川や湖沼等の水辺に生息し、魚類やカエル類、アメリカザリガニ等を捕食する。繁殖期は4～7月頃で、水辺近くの樹上に巣をつくる。
アマサギ	確認状況	実施区域の水田において、春季に1例1個体、初夏に1例1個体、夏季に3例12個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、春季に1例2個体、初夏に2例2個体、夏季に1例4個体が確認された。
	一般生態	主に夏鳥として渡来し、本州以南で繁殖するが、九州や南西諸島では多くが越冬する。主に昆虫類やカエル類を捕食する。他のサギ類よりも乾いたところを好む。繁殖期は4～9月頃で、樹林や竹林に他のサギ類とともに集団で営巣する。
チュウサギ	確認状況	夏季の調査において、実施区域の水田で5例37個体、実施区域の周辺地域の水田で4例10個体が確認された。
	一般生態	冬季は南方に渡去する個体が多いが、少数は関東地方以南で越冬する。主に平地の草地や水田、湿地等に生息するが、河川にも出現することがある。水辺や湿潤な草地をゆっくり歩きながら、昆虫類や魚類、甲殻類、両生類等の小動物を捕食する。繁殖期は4～9月で、平地や丘陵の樹林地に他のサギ類とともにコロニーを形成し、マツ林や雑木林、竹林等の樹上に営巣する。
ミサゴ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、冬季に4例4個体が確認された。
	一般生態	日本全国に分布し、北日本で繁殖した個体の一部は越冬のため冬季に南へ移動する。海岸、大きな河川、湖沼の周辺に生息し、魚類を餌とする。人気のない海岸の岩の上や岩棚、山地の尾根上等の大径木の上に枯れ枝を積んで皿形の巣を作る。3月中旬から4月頃に2～3卵を産む。
オオタカ	確認状況	実施区域の農耕地において、秋季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川周辺において、冬季に1例1個体、秋季に1例1個体が確認された。 なお、実施区域には本種が営巣できる樹木は分布しない。また、実施区域の周辺地域においても営巣地となるまとまった樹林地は分布しない。
	一般生態	北海道、本州及び四国の一部で繁殖し、越冬期には全国でみられる。平地林や農耕地周辺に生息し、ツグミほどの大きさの小鳥のほか、ハト類、カモ類等の中型から大型の鳥類を捕食するが、時にはネズミ類、ウサギ等の哺乳類も捕食する。営巣期は3～7月頃で、主にマツ類やスギ、ヒノキ等の針葉樹林の樹上に枯れ枝を積み重ねて営巣し、普通3～4卵を産む。
ツミ	確認状況	秋季において、実施区域から実施区域の周辺地域にかけての水田地帯上空を飛翔する1例1個体が確認された。
	一般生態	北海道から九州で繁殖する。神奈川県では、夏鳥または留鳥として生息する。平地から亜高山帯の森林に生息し、近年では主に関東地方を中心に、住宅地の緑地や街路樹で繁殖するものが増加している。繁殖期は4～7月頃で、高い枝に巣をかける。スズメからツグミほどの大きさの小鳥類のほか、コウモリ類、ネズミ類等の哺乳類、セミ等の昆虫類を捕食する。

表 5.2.8.52(2) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
コチドリ	確認状況	春季調査時において、実施区域の畑地から相模川方面へ飛翔する1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田で1例1個体が確認された。
	一般生態	主に夏鳥として渡来し、国内に広く分布する。河川敷や砂浜海岸、埋め立て地等で繁殖する。繁殖期は4～7月頃で、砂利・小石・貝殻等を集めただけの簡単な巣を地上につくる。採餌場所は主に湿地で、水田や川筋でも採餌する。餌は主に水生昆虫、ミミズ類等の小動物である。
ケリ	確認状況	実施区域の水田において、冬季に3例3個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、冬季に2例2個体、秋季に2例9個体が確認された。
	一般生態	本州の中部地方以北で夏鳥として繁殖するが、分布は局地的である。冬季は一部が越冬し、本州中部地方以南に比較的多い。水田、畑、川原等、平坦で開けた場所に生息する。水田等で地上を走り、昆虫類の成虫・幼虫を捕食するほか、イネ科やタデ科等の草の種子等を餌とする。繁殖期は3～6月頃で、巣は地上に窪みを掘り、枯れ草、蘚類、地衣類、木片等を敷く。草むらのなかでは、周りの草を踏み倒して窪みに替える。普通は4卵を産むことが多い。渡りの時期や冬季には群れをなすことがある。
タゲリ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、冬季に2例3個体が確認された。
	一般生態	冬鳥として本州、四国、九州等の各地に渡来する。水田、湿田、干潟、川原や湖沼の水辺等、開けて見通しのよい平坦地を好む。昆虫の成虫・幼虫等を餌とする。繁殖期は3～6月頃で、地上の草むらの中に窪みをつくり、草の葉等を集めて皿形の巣を作る。普通4卵を産む。
イソシギ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川及び相模川において、夏季に1例1個体、秋季に5例5個体が確認された。
	一般生態	全国に生息し、九州以北に夏鳥として渡来し、繁殖する。また、本州中部以南では冬季にもみられるが、留鳥かどうかは疑わしい。河川、湖沼等の水辺に生息し、水田、畑地等にも採餌に現れる。礫や砂泥の場所を好む。主として水生昆虫類を餌とする。繁殖期は4～7月頃で、砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿形の巣をつくる。
タシギ	確認状況	秋季調査時において、実施区域と実施区域の周辺地域の境界に位置する農業用水路で2例2個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川で1例1個体が確認された。
	一般生態	冬鳥または旅鳥として渡来する。大小河川、遊水池、休耕田、冬季の水田、用水路等で休息、越冬する。くちばしを泥中に入れて、主にミミズ類や昆虫類を捕食する。
コアジサシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に6例13個体、初夏に4例5個体、夏季に1例1個体が確認された。
	一般生態	本州以南に夏鳥として渡来し、湖沼や河川、河口等の大きな水系のある河原、砂州、砂浜等に生息する。主に体長10cm以下の小魚類等を捕食する。繁殖期は5～7月頃で、捕食者が近づきにくい小島や中州等の砂地に浅い窪みを掘って巣をつくる。

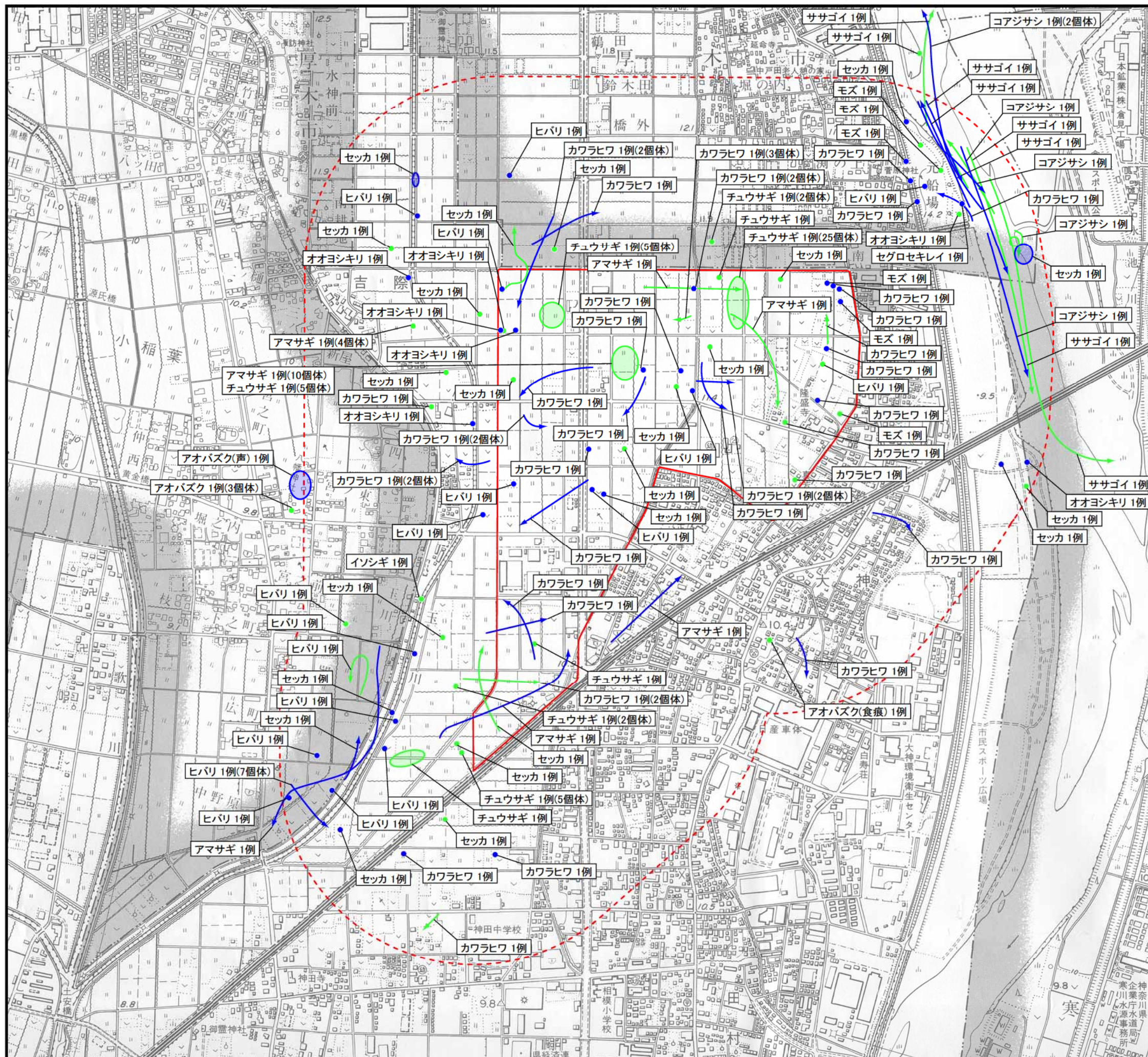
表 5.2.8.52(3) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
アオバト	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いにおいて、秋季に1例1個体の鳴き声が確認された。
	一般生態	北海道から九州で繁殖し、北部のものは冬季に南へ移動する。神奈川県内では夏鳥として渡来するが、一部は越冬する。丘陵地から山地の森林に生息し、主に樹上で木の実を採餌する。数～数十羽の群で行動することが多い。繁殖期は6月頃で、樹上に浅い皿形の巣をつくり繁殖するが、巣の発見例は稀である。春季から秋季に群で海岸の岩礁に飛来し、海水を飲む習性があり、神奈川県内では大磯町照ヶ崎海岸が飛来地として知られている。
アオバズク	確認状況	実施区域の周辺地域に位置する八幡神社境内において、春季に1例2個体、初夏に鳴き声(さえずり)、夏季に1例3個体(成鳥1個体、幼鳥2個体)が確認された。また、実施区域の周辺地域の神社境内において、夏季に食痕が確認された。
	一般生態	全国に夏鳥として渡来し、平地から低山にかけての広葉樹林、照葉樹林、混交林に生息する。夜行性で主に昆虫類を捕食するほか、コウモリ類等も捕食する。繁殖期は5～8月頃で、樹林や社寺林、屋敷林等の樹洞に営巣する。
ヒメアマツバメ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、春季に2例7個体が確認された。
	一般生態	ももとは日本には生息しない鳥類であったが、1960年代に関東地方以南の太平洋岸で局所的に観察され、それ以降分布が拡大する傾向にある。留鳥として、主に平野部の市街地やその周辺の丘陵地に生息する。上空を飛び回りながら、飛翔性昆虫類を捕食する。繁殖期は4～12月頃で、1シーズンに2～3回繁殖を行う。建造物のひさし等に集団で営巣する。
ヒバリ	確認状況	実施区域及びその周辺地域の水田地帯において、春季に19例20個体、初夏に15例21個体、夏季に3例3個体が確認された。
	一般生態	九州以北から北海道までの全国で繁殖する。積雪の多い地方では冬季に南下して越冬し、留鳥あるいは漂鳥として生息する。平地から高山の牧草地、草原、河原、農耕地、埋め立て地等に生息し、低茎草本が疎らに生えた乾燥地を好む。昆虫類やクモ類を餌とするほか、秋季や冬季には草の種子も採食する。繁殖期は4～7月頃で、草の生えた地上に巣をつくる。繁殖期には雄は空に舞い上がり、空中でさえずる“さえずり飛翔”を行う。
ツバメ	確認状況	実施区域及びその周辺地域の農耕地から市街地、相模川流域まで、ほぼ全域において、春季から夏季にかけて多数の個体が確認された。
	一般生態	夏鳥として全国に渡来し繁殖する。市街地や山間の村落に多く、空中で昆虫類を捕食する。繁殖期は4～7月頃で、人家や駅、商店等の人の住む建造物の軒下に営巣する。繁殖が終了した8月頃からは、河川の流域や海岸、河口等にあるヨシ原に集団でねぐらを形成する。
セグロセキレイ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川において、初夏に1例1個体が確認された。
	一般生態	九州以北に留鳥として生息する日本列島の固有種である。河原等の水辺に生息し、主に水生昆虫類を捕食する。本州では3～6月に繁殖し、石垣、地上の石や草の下、建築物の屋根や柱の隙間等に営巣する。

表 5.2.8.52(4) 重要な鳥類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
モズ	確認状況	実施区域において、初夏に2例2個体、夏季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、初夏に1例1個体、夏季に2例2個体が確認された。
	一般生態	全国に分布し、積雪地では冬に暖地に移動する。疎林や林縁、木のある草地、農耕地、公園等に生息し、昆虫類やミミズ、両生・爬虫類、鳥類、小型哺乳類を捕食する。繁殖期は2月下旬～8月頃で、低木の藪の中に小枝・枯れ草・ビニール紐等を用いて椀型の巣をつくる。
オオヨシキリ	確認状況	実施区域のヨシ原において、春季に1例1個体、初夏に2例2個体、夏季に1例1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域のヨシ原において、春季に1例1個体、初夏に3例3個体、夏季に1例1個体が確認された。
	一般生態	北海道北・東部と沖縄を除く全国に夏鳥として渡来し、水辺のヨシ原等に生息する。茎から茎へと移動しながら昆虫類を捕食する。繁殖期は5～8月頃で、ヨシの茎の間にイネ科の葉や茎を用いて椀型の巣をつくる。
セッカ	確認状況	実施区域の農耕地において、春季に1例1個体、初夏に1例1個体、夏季に7例7個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域のヨシ原において、冬季に1例1個体、春季に8例8個体、初夏に7例7個体、夏季に8例8個体が確認された。
	一般生態	本州以南の各地に分布し、北部のものは冬季に南下する。低地から山地の草原、水田に生息し、チガヤやカルカヤ等丈の低いイネ科草本が茂る草原を好む。植物群落内を移動しながら、昆虫類やクモ類を捕食する。繁殖期は4～9月中旬頃と長く、チガヤやススキ等のイネ科の葉をクモの糸で縫い合わせて球巣をつくる。
カワラヒワ	確認状況	実施区域において、春季に2例7個体、初夏に17例21個体、夏季に5例8個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域において、春季に2例3個体、初夏に9例10個体、夏季に2例2個体が確認された。
	一般生態	北海道から九州までの全域に分布する。主に留鳥として年中みられるが、北海道や雪の多い地方では夏鳥で、冬は温暖な地方に移動する。人家周辺や農耕地、雑木林、河原に生息する。四季を通じて、キク科、イネ科、タデ科、マメ科等の植物の種子だけを採食する。繁殖期は3～7月頃で樹木に椀型の巣をつくる。

注) 1.参考：平凡社「日本動物大百科 3鳥類Ⅰ」(平成8年)  
 平凡社「日本動物大百科 4鳥類Ⅱ」(平成9年)  
 保育社「原色日本野鳥生態図鑑 〈陸鳥編〉」(平成7年)  
 保育社「原色日本野鳥生態図鑑 〈水鳥編〉」(平成7年)  
 神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年)  
 2.表中の確認個体数は、のべ数である。



- 凡 例
- 実施区域
  - 調査範囲
  - → 確認位置 (初夏)
  - → 確認位置 (夏季)
  - × ハンティング(狩り)
- ※ ツバメは全域で多数確認 (初夏・夏季)

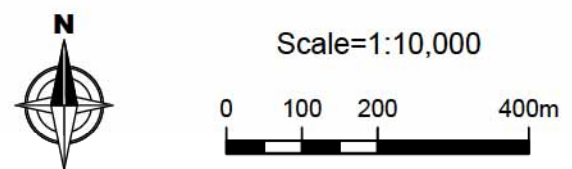
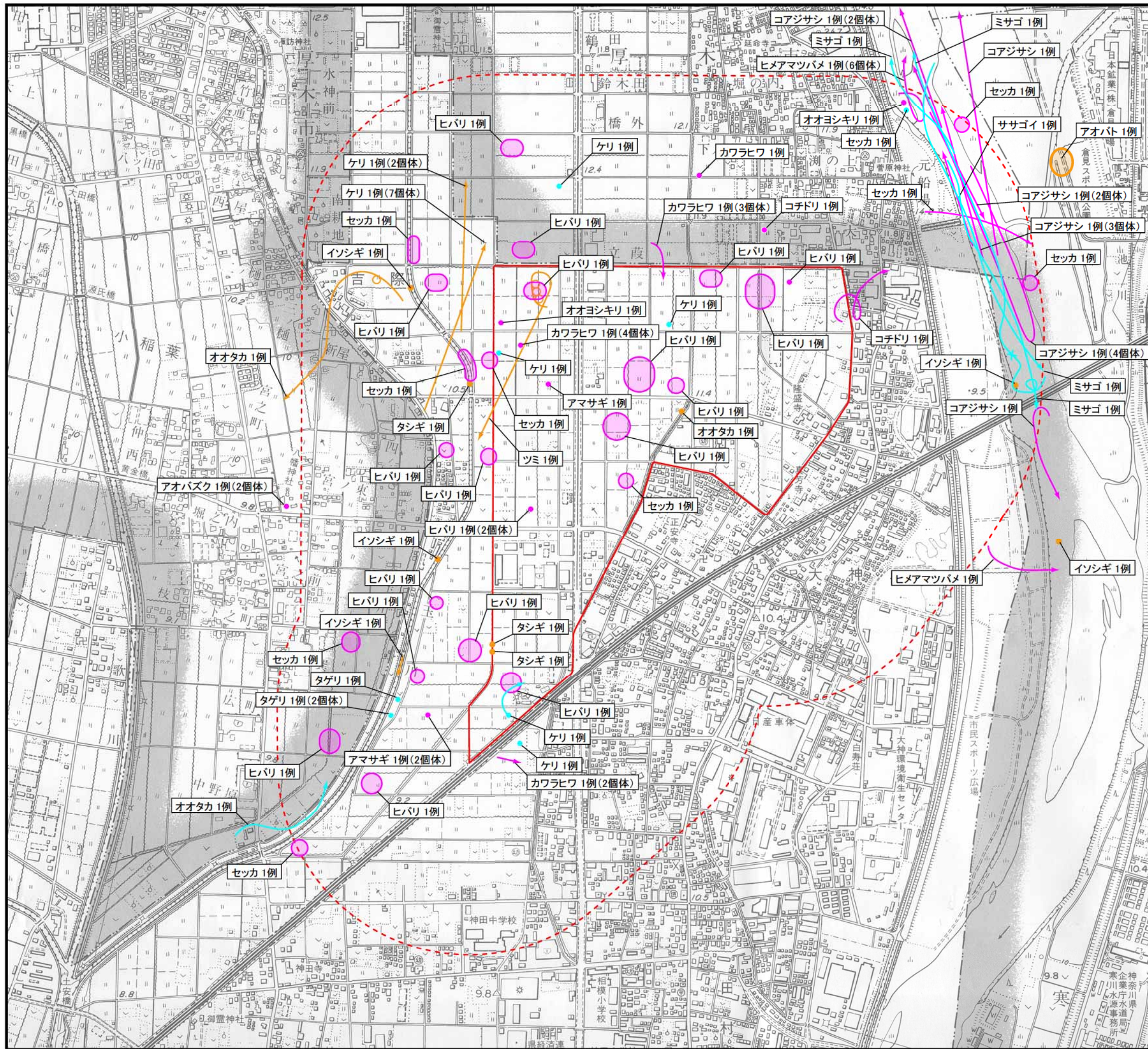


図5.2.8.17(1)  
重要な鳥類の確認位置  
(初夏・夏季)



凡 例

○ 実施区域  
 ○ 調査範囲

● 確認位置 (冬季)  
 ● 確認位置 (春季)  
 ● 確認位置 (秋季)

× ハンティング(狩り)

※ ツバメは全域で多数確認 (春季)



Scale=1:10,000

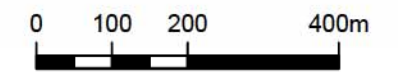


図5.2.8.17(2)  
 重要な鳥類の確認位置  
 (冬季・春季・秋季)

ウ. 両生類・爬虫類

抽出の結果、表 5.2.8.53～54 に示すとおり、文献資料に基づく種として、4 科 7 種が確認され、現地調査では、1 科 3 種（亜種）が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.18 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.55 に示すとおりである。

表 5.2.8.53 重要な両生類・爬虫類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名 和名	文 献				選定基準						
				①	②	③	④	1	2	3	4			
1	カエル目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル			●								要
両生類:1目1科1種				0種	0種	1種	0種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	
2	カメ目	イシガメ科	イシガメ			●						DD	CR+EN	
3	トカゲ目	トカゲ科	トカゲ			●								要
4		ヘビ科	シマヘビ			●								要
5			アオダイショウ			●								要
6			ヒバカリ			●								NT
7			ヤマカガシ			●								要
爬虫類:2目3科6種				0種	0種	6種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	6種	
3目4科7種				0種	0種	7種	0種	0種	0種	0種	0種	1種	7種	

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.54 重要な両生類・爬虫類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲									
		1	2	3	4	5	実施区域				実施区域の周辺地域					
							春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季		
イシガメ	クサガメ					—									●	
ヘビ	シマヘビ				要						●	●	●	●	●	●
	アオダイショウ				要						●			●	●	
	ヒバカリ				NT	二										●
1 科 3 種(亜種)		0 種	0 種	0 種	3 種 (亜種)	2 種	0 種	0 種	0 種	1 種	2 種	1 種	3 種	3 種 (亜種)		
							1 種				4 種					

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.55 重要な両生類・爬虫類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項 目	内 容
シマヘビ	確認状況	実施区域において、秋季に 1 個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域の水田において、春季に 1 個体、初夏に 1 個体、夏季に 1 個体、秋季に 1 個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州のほか、佐渡島、伊豆諸島、隠岐、壱岐、五島、御蔵島以北の大隅諸島等の島嶼に分布する。日本固有種である。平地から低山地にかけての比較的開けた草地や林縁等に生息し、水田周辺等に多くみられる。主にトカゲやカエルを捕食する。
アオダイショウ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿い及び市街地において、春季に 2 個体（うち、1 個体は死体）、夏季に 1 個体（死体）、秋季に 1 個体（死体）が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、国後、佐渡島、伊豆大島、隠岐、対馬、五島、薩南諸島等の島嶼に分布する。日本固有種である。平地や低山地の樹林や農耕地等に生息する。樹上性の傾向が強く、木に登って鳥類のヒナ等を捕食するほか、木造の住宅等にも進入し、屋根裏でネズミ類等も捕食する。
ヒバカリ	確認状況	実施区域の周辺地域において、秋季に 2 個体（うち、1 個体は死体）が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、佐渡島、三宅島、隠岐、壱岐、屋久島、下甕島等に分布する。日本固有種である。長崎県男女群島には亜種関係にあるダンジョヒバカリが分布する。樹林や草地、水田周辺等に生息し、主にカエル類やミズズミ類等を捕食するが、水中に入って小魚を捕らえることもある。

注) 参考：平凡社「日本動物大百科 5 両生類・爬虫類・軟骨魚類」(平成 8 年)

平凡社「決定版 日本の両生爬虫類」(平成 14 年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」(平成 18 年)

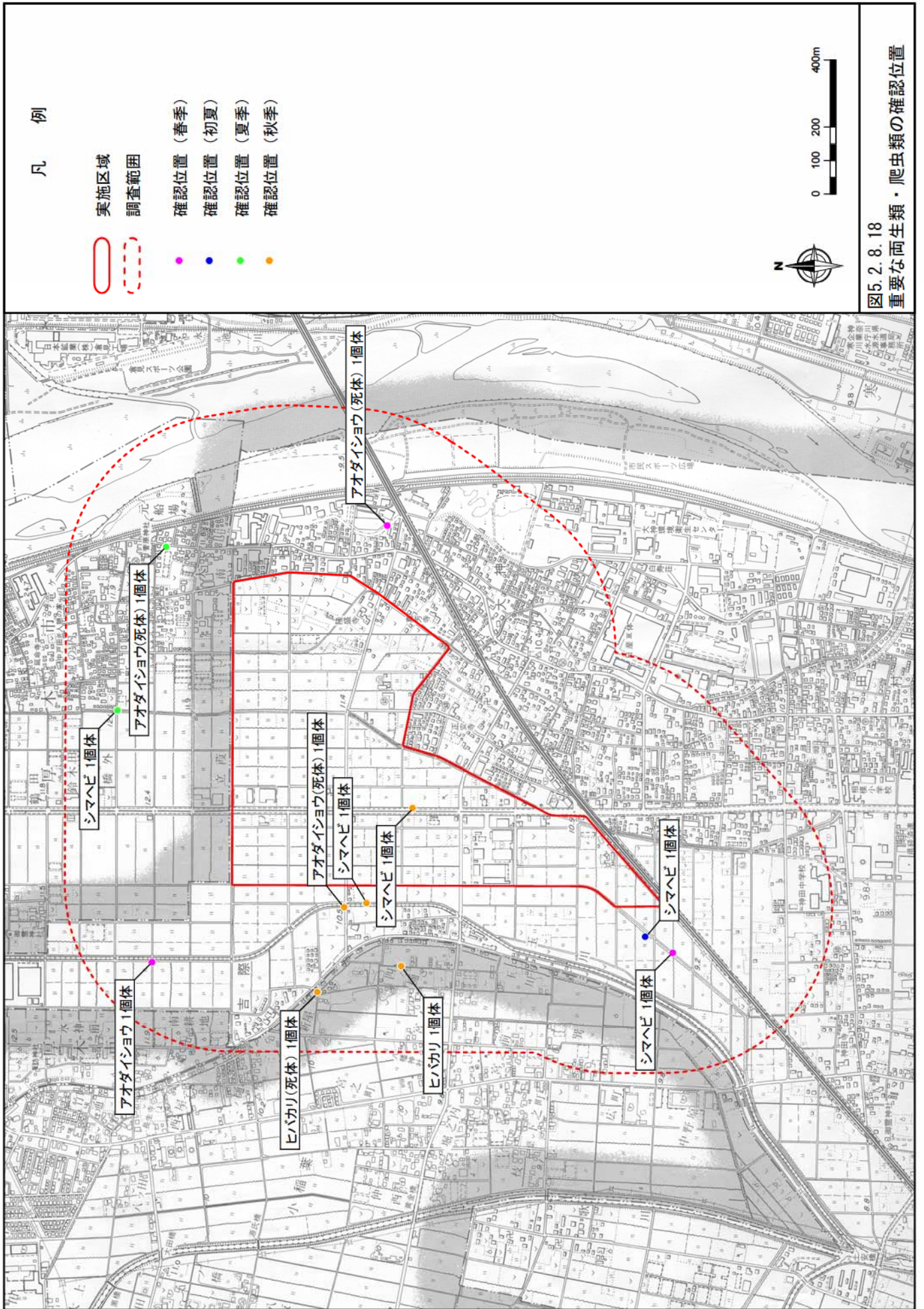


図5.2.8.18  
重要な両生類・爬虫類の確認位置



エ. 昆虫類

抽出の結果、表 5.2.8.56～57 に示すとおり、文献資料に基づく種として、21 科 47 種が確認され、現地調査では、8 科 11 種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.19 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.58(1)～(2)に示すとおりである。

表 5.2.8.56 重要な昆虫類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名	文 献				選定基準						
			和名	①	②	③	④	1	2	3	4			
1	トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ			●						要		
2			セスジイトトンボ			●							要	
3			モノサシトンボ	モノサシトンボ			●						NT	
4			アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ			●						要	
5			カワトンボ	ハグロトンボ			●						要	
6			トンボ	コフキトンボ			●							要
7				ハラビロトンボ			●							要
8				シオヤトンボ			●							要
9				チョウトンボ			●							EN
10				ナツアカネ			●							要
11				マユタテアカネ			●							要
12				ミヤマアカネ			●						NT	
13	バッタ	ケラ	ケラ			●						要		
14		コオロギ	クロツヤコオロギ			●						NT		
15		スズムシ	スズムシ			●						要		
16		マツムシ	マツムシ			●						要		
17		キリギリス	キリギリス			●						要		
18			オナガササキリ			●						要		
19	バッタ	ショウリョウバッタモドキ			●						要			
20	カメムシ	アメンボ	オオアメンボ			●					NT			
21		ミズムシ	Sigara属の一種			●					DD			
22	コウチュウ	オサムシ	フタモンマルクビゴミムシ			●					NT	CR+EN		
23			コハンミョウモドキ			●						VU	VU	
24			アシグロチビヒョウタンゴミムシ			●							NT	
25			フタボシチビゴミムシ			●							NT	
26			アトスジチビゴミムシ			●							VU	
27			デンリュウメダカチビカワゴミムシ			●							DD-B	
28			オビモンコズギワゴミムシ			●							NT	
29			ヨツボシツヤナガゴミムシ			●							CR+EN	
30			キアシツヤヒラタゴミムシ			●							NT	
31			ヨツボシゴミムシ			●							NT	
32			イグチケブカゴミムシ			●							NT	
33			クロケブカゴミムシ			●							NT	
34			クビナガヨツボシゴミムシ			●							VU	
35			エンママシ	ドウガネエンママシ			●						CR+EN	
36				ルリエンママシ			●						VU	
37	センチコガネ	ムネアカセンチコガネ			●						NT			
38	タママシ	ヤマトタママシ			●						要			
39	ツチハンミョウ	マメハンミョウ			●						要			
40	カミキリムシ	キイロトラカミキリ			●							要		
41		トラフカミキリ			●							要		
42		ブドウトラカミキリ			●							NT		
43		シロスジカミキリ			●							要		
44		ルリカミキリ			●							VU		
45	チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			●					NT	NT		
46			ミヤマチャバネセセリ			●							要	
47			タテハチョウ	コムラサキ			●						EN	
5目21科47種				0種	0種	47種	0種	0種	0種	0種	3種	47種		

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。